第３学年１組　外国語科学習指導案

授業者：林田　佳穂
井上　ティナ

単元名：「Unit4 How can we help each other in a disaster?」（本時：１１/１２ 時間）

【生成 AI の活用】

① **生徒の課題解決の意欲を高めることを目的とした単元を貫く学習課題の内容の検討(Gemini の活用)**

Q：New Horizon3 Unit4 のまとめの活動で、災害前・災害時・災害後に地域の外国人を支援する話し合い活動を効果的に行うテーマは、どのようなものがありますか。

A：「単元の文脈（東日本大震災での外国人の犠牲やテイラーさんの思い）を活かし、「自分たちが地域の一員として外国人をどう支えられるか」という主体的な課題解決型の話し合い活動が効果的です。

② **課題解決の手だてとして利用できる Canvas の設定（Gemini の Canvas 機能の活用）**

地震前・地震時・地震後に考えられる ALT がとる行動等の課題やリスクをもとに、生徒が考えた行動や準備、その理由を ALT に伝えるというミッションを、Canvas を用いて作った。

また、ALT にアドバイスをするために作成する原稿のヒントとなる英文を提示し、その一部を変えて原稿が完成できるようにした。

さらに、辞書機能を加え、日本語の単語は調べることができるが、日本語の文章は翻訳できないように設定した。

【単元計画】　（全１２時間、本時：１１時間目）

	時数	学習活動・内容
導入	1	単元を貫く学習課題を知り、ゴールへの見通しをもつ。
	1	間接疑問文を理解し、使えるようになる。
	1	動詞＋人＋what で始まる節を理解し、使えるようになる。
	1	過去分詞の後置修飾を理解し、使えるようになる。
	1	現在分詞の後置修飾を理解し、使えるようになる。
展開	1	緑市の外国人市民意識調査の結果を読み取り、理解する。
	1	防災に必要な物を読み取り、理解する。
	2	テイラーさんの映画を見た後のレポートの内容を読み取り、理解する。
終末	1	日本での言葉の壁や災害の経験が少ない外国人が命を守り、避難生活を乗り切るために、災害前・災害時・災害後における大切な準備や行動を、ALT にアドバイスする英文を作る。
	1	前時に作成したアドバイス文を ALT に伝えた後、ALT からの質問を受け、アドバイス文を再構築する。
	1	前時に再構築したアドバイス文を使って、ALT にアドバイスをし、単元全体をふりかえる。

【本時案】

単元目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
間接疑問文と SVOO（what 節）の文、現在分詞と過去分詞の後置修飾の文を理解し、使える技能を身に付ける。	日本での災害経験が少ない ALT に、地域の一員として、地震前・地震時・地震後に命を守るために、どんな準備や行動をしたらよいかを表現している。	友達との話し合いを通して得られた考えや ALT からの質問を基に、自分の考えを改善しながら、相手を意識した英文を作って、ALT に伝えようとしている。
本時の主眼	外国人の方々が命を守り避難生活を乗り切るために、地震前・地震時・地震後における大切な準備や行動を、間接疑問文を使って、ALT の疑問に答えながら、アドバイスする英文を再構築する。【思考・判断・表現】	

<table>
<tr><td>準備</td><td colspan="4">□　学習プリント　　□　タブレット（生徒、教師）　　□　テレビ　　□　生成 AI</td></tr>
<tr><td>過程</td><td>学習活動・内容</td><td>手立て（○）評価（◇）</td><td>形態</td><td>配時</td></tr>
<tr><td>導入</td><td>1　めあてを確認するために、学習課題を確認する。</td><td>○　学習課題を想起しやすいように、2 年時の総合的な学習の時間の「ディザスター久山」で調べた内容を伝える。</td><td>一斉</td><td>5</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">【学習課題】
地域に住む外国人の方々が命を守り避難生活を乗り切るために、災害前・災害時・災害後に大切な準備や行動を間接疑問文を使って、ALT にアドバイスする。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">めあて
地震前・地震時・地震の大切な準備や行動について、ティナ先生の疑問に答えながら、
アドバイス文を完成させよう。</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>2　事前に作成していた地震前・地震時・地震後のアドバイスを ALT に伝える。
【想定される生徒のアドバイス】
Before an earthquake, you should go to the local shelter. Because it is safe.
話し合い活動</td><td>○　ALT に班ごとの地震前・地震時・地震後のアドバイスを聞いた後、知りたいことを質問する場面を設ける。
【ALT の質問例】
How can I know where is the nearest evacuation center?
生成 AI の活用</td><td>一斉</td><td>10</td></tr>
<tr><td></td><td>3　アドバイスを伝えた後、ALT からの質問に対する答えとなる英文を付け加え、相手を意識した英文を再構築するために、班で話し合う。</td><td>○　わからない単語を調べる際は、生成 AI アプリの単語辞書機能を活用するよう助言する。</td><td>個
↓
班</td><td>15</td></tr>
<tr><td></td><td>4　提示されたモデル文を参考にして、ALT のアドバイスを書く。
【モデル文】
1 文目：Before / During / After~
2 文目：Because~
3 文目：Do you know ＋間接疑問文?
（相手意識の英文）
4 文目：You can~. / You should~. etc
（ALT からの質問に対する答）

【想定される生徒のアドバイス文再構築例】
Before an earthquake, you should go to the local shelter. Because it is safe.
Do you know <u>where the local shelter is?</u>
Lespoir is the best local shelter.
You can protect your lives there.</td><td>○　アドバイスを再構築するために、モデル文を提示する。

○　間接疑問文を使って、相手を意識した英文ができているかどうか、班ごとに中間評価をする場面を設ける。

○　アドバイス文が完成した班の代表者に生成 AI アプリに入力するよう指示する。</td><td>一斉
↓
班</td><td>15</td></tr>
</table>

終末	4　まとめ（振り返り）を行う。	◇　話し合い活動で友達の考えを聞いたり、ALT からの質問に答える英文を付け加えたり、生成 AI を活用したりして、間接疑問文を用いて「～を知っていますか」という問いを交えながら、相手を意識した英文のアドバイスを作ることができたか。 （様相観察・学習プリント）	個	5

まとめ（例）
「付け加えたアドバイスで間接疑問文を使った１文を書きましょう。」
Do you know where the local shelter is?

Feedback（例）
間接疑問文を使って「～を知っていますか。」と尋ねることができれば、災害が発生した時に、外国人の方々に対して大切な準備や行動をアドバイスできるきっかけとなり、災害への不安を少しでも減らすことができ、安心できると思いました。